

第2回 未来へつなぐ学校づくり説明会 結果概要

1. 教育委員会からの説明概要

各エリアの具体的な再編プラン等を示した、座間市学校再編計画素案（暫定版）の概要について、動画や配布資料に沿って、参加者へ説明しました。

今回の説明会でいただいた、ご意見等を参考に確定版の素案を作成し、本年10月頃を目途にお示しする予定としています。

2. 開催日程、場所

日時	会場	主な対象者
令和8年6月14日（日） 午前10時～11時30分	市役所 5-1会議室	市内にお住いの保護者、住民 ※全エリアを包括的に説明
令和8年6月20日（土） 午前10時～11時30分	東中学校 屋内運動場	東部エリア（ひばりが丘小、東原小、旭小、東中）の保護者、地域住民
令和8年6月20日（土） 午後1時30分～3時	イオンモール座間 イオンホール	北部エリア（相模野小、相模が丘小、相模中）の保護者、地域住民
令和8年7月7日（火） 午後6時30分～8時	市公民館 集会室	西部エリア（座間小、入谷小、西中）の保護者、地域住民
令和8年7月11日（土） 午前10時～11時30分	市役所 5-1会議室	中央エリア（相武台東小、立野台小、栗原小、中原小、座間中、栗原中、南中）の保護者、地域住民

3. 参加者（全体）

※ 未就学児童等は含みません。

年代別	人数	参加区分別	人数	住まい別	人数
10代以下	1	保護者	143	市内	223
20代	3	（うち未就学児の保護者）	28	市外（通勤）	3
30代	54	地域住民	64	市外（通学）	0
40代	79	教職員	2		
50代	29	その他	17		
60代	30				
70代以上	30				
合計					226

4. 質疑応答、意見交換内容

① 令和8年6月14日（日）全エリア（市役所）

No	項目	参加者質問・意見	市回答
1	新しい学校づくり	リーフレット背面のイラストのような学校が実現できると、未来の座間の子どもたちは安心して大人になっていけると思う	少人数学級には、メリット、デメリットがそれぞれある。 今後、学級編成の上限人数を国や県が見直した際には、市としても追従して望ましい学校規模を確保していきたい。
	少人数学級	35人学級で計画を検討していると思うが、座間市では、30人学級で検討を進めてもらえるとうありがたい。	
2	再編スケジュール	再編のスケジュールについて、相模野小の移転と旭小の関係が分かりにくかった。	相模野小が移転したタイミングで、東部エリア北側の通学区域を見直す予定。
3	跡地活用	不登校支援や特別支援学級への対応も大切だと思っている。跡地活用で学びの多様化学校を整備する可能性はあるか。	学びの多様化学校は、今のところ想定していない。 跡地活用については、庁内横断的に検討していく予定。
	不登校支援	不登校支援について、再編を機に諸課題の解決に向けて、（仮称）魅力ある学校づくり準備委員会等で専門部会として設置するなど対応いただきたい。	不登校支援について、現在、2か所目の教育支援教室（つばさ）の設置を検討している。
4	通学路・通学距離	通学路が長くなったときの対応が必要。特に小学校1年生への影響は大きいのではないか。	通学路については、職員が複数の登校班に同行し安全性等を検証した。検証は引き続き行っていく。
	小中一貫教育	小中一貫教育校は全国的にも出てきている。再編時は座間市でも小中一貫化するチャンスではないか。	9年間を見通した教育課程のメリットもあるが、本市の児童生徒数で小中一貫校や義務教育学校にした場合、大規模校となり、デメリットも大きくなりかねない。 現在のところ、小学校と中学校を近くに配置し、連携して子どもたちを育てていくことを進めていきたい。
5	学校の廃止	老朽化はこれまで市がファシリティマネジメントをしてこなかった結果ではないか。児童生徒数の減少、教職員の成り手不足は、子育て対策や働き方改革不足の結果であり、この状況はこれらの積み重ねに見える。 廃校はマイナスのメッセージになりかねず、子ども・若者を呼び込むことにつながるのか。 廃校・縮小が前提に聞こえるが、持続可能性につながるのか。 廃校となる学校も、小規模化や老朽化などの理由が書かれているが、そうでない学校も対象になっているように思える。	今回の計画は、各学区の児童生徒数の将来推計を綿密に分析して配置を考えているが、児童生徒が増えた時代に増えた学校を縮小してくものと言える。 公共施設の再整備を含めて市の魅力を増やしていくことを考えている。 案をつくる中では、学校規模だけでなく防災拠点や住居分布、学校の施設整備などの視点も含めた総合的な検討を行っている。
6	児童ホーム	上の子がまだ2歳でその子が小学生のときに、途中で移転、統合があるかもしれない。学童など、親が安心して子どもを通わせることができるのかという視点で検討をしているのか。	児童ホームも含めて、横断的に検討している。
7	少人数学級	学校は、安心して楽しく、一人ひとりの思いを共有できる、ほっとするような場であってほしい。 かつては子どもに話を聞かせようとしていた先生も子どもの話を聞く、寄り添う教育	35人は学級編成の上限であり、実際は大半が26～30人体制となっている。 市で独自基準を設けて教員を採用するのはかなり厳しいが、定員改善につい

		ができるようになっていく。 35人で収めれば良いのではなく、群れるのが良いのでもない。 子どもを中心に学校の在り方を深く考えていただき、今ある学校を簡単になくさないで欲しい。	ては引き続き国・県に要請していく。 計画は5年毎に見直すので、その際には将来推計や国の動向も踏まえて必要に応じて見直していく。
8	通学路・通学距離、指定校変更	通学路について、入谷小学校区には急な坂道があって遠くなり、親としては立野台小に通わせたいと思う。	入谷東は広いエリアのため、どこかで線を引く必要がある。 指定校変更要件の緩和を検討していく。
	再編に伴う子どもの精神的影響	再編に伴い、転出入が多くなると環境の変化に弱い子どもの負担になるのではないかな。	個々の困りごとへの対応は柔軟性をもって取り組みたい。
9	自転車通学	自転車通学について、2.5km以内でも緩和措置はあるのか？	柔軟な対応を考えているが、基本ルールは固めたいと思っている。
10	再編の進め方	在学中に廃校が決まった場合、在学学生は卒業までその学校に残るのか。	ある年をもって、全員が転校する可能性が高い。
	再編スケジュール	南中はいつ廃校になるのか、大まかな工程が分かるとありがたい。	準備期間があるので、2、3年の間に廃校になることはない。 詳細は原案でお示しする予定です。
11	隣接自治体への通学	海老名市の柏ヶ谷中学校に通うことは選択肢としてあるのか。	市としては考えていないが、特別な事情がある場合は、市を超えて通っているケースもある。
12	指定校変更	東原小に通っている。今は南中学校区だが、入学する時点で東中学校に通うことはできるか？	南中学校の生徒数が減ってしまう懸念もあるが、そのような選択が取れるように、柔軟に対応したいと考えている。

② 令和8年6月20日（土）東部エリア（東中学校）

No	項目	参加者質問・意見	市回答
1	通学路・通学距離	小松原2丁目に住んでいる。子どもは小2と年中がいる。 自宅から旭小まで30分かけて通学し、送り迎えすることがある。 相模野小学校に通うことになると50分は掛かるのではないかなと思う。 スクールバスについて検討して欲しい。	通学距離を調べた際に、小松原が課題となる地域だと感じた。 引き続き、通学路の検証を続けていく。 なお、小松原2丁目地区については、相模野小が移転した際に再編する予定だが、通学距離は1.9kmになる見込み。
2	通学路・通学距離	子どもの安心・安全が第一だと思う。 子どもの通学時間がかなり長くなる。 熱中症なども考慮し、一番負担が大きい小学校1年生のことを考えての再編計画が必要。 通学路の安心・安全検討について、再編計画後ではなく、先に行って欲しい。 旭小学校よりも、中間のひばりが丘小学校を両校に分散させた方が子どもの負担を抑えつつ、適切な再編ができるのでは。	夏が暑くなっていることから、低学年の子どもへの対処については今後検討したい。 学校配置では、ひばりが丘小と東中の近接配置が、連携教育を図りやすい。 また、現在の旭小学区から、比較的通学距離は伸びない想定です。 学校敷地についても、ひばりが丘小学校の方が正方形に近く、面積を確保できるため、自由度の高い改築が進められると考えている。 地域特性や学校敷地の形状などを配慮した上でこのような案になった。
3	通学区域、再編の進め方	最近、小松原2丁目に転居してきた。 出勤に合わせた送り迎えも考えて旭小学校区に家の購入を決めた。 学区と地区の整合・連携だけで、相模野小学校区になったのではないかなと感じている。 相模野小移転後の学区変更の仕方について決めていることはあるか。	未決定ではあるが、ある年をもって一斉に行う方法と、新入生の段階から変える方法などが考えられる。なるべく子どもたちの負担にならないようにと考えている。

4	指定校変更	適正規模はわかるが、旭小の方が新しいと思う。 孫が旭小に行くことになるが、学校の選択制ができるかどうか、検討してほしいと思う。	現在は、特別な事情がない限り、指定校変更をあまり認めていないが、再編の影響が大きいことから、指定校変更の要件を変えることも検討している。 また、指定校変更許可区域にすることも考えている。
	児童ホーム	働いている親がいるので、児童ホームをどう考えているのかについても、素案に入れて欲しい。	【市長】 基本的に、学校の中に児童ホームを入れることを全市的に進めている。 待機児童増加への対応が必要で、学校再編や建替えは、児童ホームを含めて考えていく。
5	児童ホーム	児童ホームの質問が出たのでお願いがある。 東原小1年生、4年生の親だが、3年生になったときに待機児童になった。 児童ホームの説明会ではなく、学校再編の説明会と承知しているが、夏休みだけでもなんとか対策して欲しい。	【市長】 子どもたちが学校に通うことに併せ、校内生活や放課後の過ごし方が重要だと認識している。 子どもたちが健全に成長する環境を整え、拡充していく。
6	通学路・通学距離	子ども達の通学の様子を見ると、通勤や高校生の通学時間帯と重複していることもあり、だいぶ危険な状況である。 信号が赤でも自転車が通過する状況も目にする。 小松原2丁目地区の児童が相模野小学校区に行く場合、交通インフラの整備を含めて再編を考えて欲しい。	通学路の安全性はハード面も含め、確保していく必要があると考えている。 警察などの関係している機関や交通安全担当部署とともに、安全を第一優先にする。 【市長】 ハード面について、改善できる部分是对応しているが、当日の朝の状況で危険性が変わることもあるので、地域の皆さんや旗持当番の「見守り」が必要だと思う。
	地域連携	地域とともにある学校と謳っているが、モデルケースにしているような地域はあるのか。	新たに開校した学校を視察するなどし、先進事例を確認している。 一つの例としては、「地域連携室」を設けている例もある。 良い所を取り入れながら、地域特性に応じた学校づくりを模索していきたい。
7	跡地活用	孫が今後、旭小に入るので聞きたい。 昭和61年、平成元年生まれの子どもが旭小学校に通っていた際、「旭小は将来老人ホームになるので無くなる。」という噂があったので、その噂に関する経過について確認したい。	老人ホームを見越して建設したという経過はない。 旭小の今後の使い方は、仮設校舎の代替として引き続き有効活用し、その後については、教育委員会だけではなく庁内一体となって考えていく。 【市長】 地元からそのような噂は聞いていたが、特に計画があったわけではない。 今回、統合の対象となっているのは旭小、中原小、南中で、人口が増えたときに新しく作った学校をたたんでいくということになる。
8	再編の必要性	近隣の海老名市や大和市からは、統廃合の話が聞こえてこないが、「なぜ座間市が」というのを聞かせて欲しい。 統廃合の必要性やメリットを伺いたい。	今後、子どもが減ってくる中で、数年後には、ひばりが丘小の一年生は単学級となる見込み。 こうなると、クラス替えができなかったり、合唱や運動会など、一定規模での学習ができなくなる。 そのため、今のうちに軌道修正し、一定程度の規模が確保できるよう計画を策定している。 また、5年ごとに計画を見直し、柔軟

			に対応する。 【市長】 海老名市も再編を行っていると考えている。 本市では、学校教育の改善を早めに進めたいということで、再編計画の策定を進めることにした。 また、老朽化した学校の修繕費が毎年重たくのしかかっている。
9	魅力ある学校づくり	子どもたちにとって「魅力ある学校」とは、「行きたくなる学校」ではないか。中学校で、音楽や文化に特化した学校を創り、高校のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）のような考え方を導入できないか。	中学校については、学習指導要領に則り、平等性の中で編成しているが、その中で「特色ある教育」をしていくことは可能である。 各学校長が、「学びを選択できるような学校」を作ることができればと思う。
10	子どもへの説明	東原小学校の保護者である。最初にニュースを聞いた時には、「廃止」という言葉から衝撃を受けたが、本日の説明が具体的だったので感謝する。 大人に対してはこれでいいと思うが、子どもは不安を覚えると思う。子どもたちには変わるということだけでなく、「このように変わる」といった明るい形のものを見せたら良いのではないか。	まずは子どもたちの意見をしっかりと聞くのが重要だと思う。 今後、再編時期を考えながら子どもたちにも説明等を行っていきたい。 今後の予定として、年明けの1月に子どもを含めたワークショップを予定しており、子どもたちの声もそこで反映していけたらと考えている。
11	プール	プールについて聞きたい。 夏の授業はプールがあるが、老朽化でプールを運営していない小学校がある。 バスで近隣施設に向かう例もある。 改修工事をしたときに、プールは新しく作るのか、どこかの施設に行く予定なのか聞きたい。 新しく作るなら、屋外で作るのか室内で作るのか。	現状、民間のプール施設を活用している。 全校で民間プールに移行したいと考えている。 メリットとして、酷暑と天候に左右されていないこと。 市のプールについては、学校施設ではないため、教育委員会では明確にお話できない。
12	子どもの意見	旭小に通う我が子から、「何で旭小がひばりが丘小より新しいのに壊されてしまうの。聞いてよ」と言われたので手を挙げた。 子どもの意見を聞く機会を作って欲しい。 在校生など、子どもたちが話をできる、子どもたちが感じていることを吐き出せる場があると助かる。	本年2月に、小学校3年生から中学生を対象としたアンケートを行った。 また、来年1月頃に開催するワークショップなど、機会を捉え子どもの意見を聞いていきたい。
13	登校班、PTA	今回の説明を聞いて登校班の重要性を感じた。 PTA役員の説明会に参加すると、PTA加入率が低すぎて登校班が維持できない市があると聞く。 加入率が下がれば、登校班を維持できなくなる懸念があるので、PTAへの加入がどれだけ重要か、保護者への発信について、市と小学校で連携できたらいい。	PTA加入促進に関する情報発信等については、所管である生涯学習課へもお伝えする。 【市長】 地域コミュニティに関して、自治会やPTAの加入率は重要なため、加入について啓発していきたい。

③ 令和8年6月20日（土）北部エリア（イオンモール座間）

No	項目	参加者質問・意見	市回答
1	通学区域	相模野小の移転先がまだ決まっていないとのことだが、小松原は1丁目と2丁目と同じ通学区域になっている。 通学区域は、地区の整合を前提で考えているのか。	学校再編を行う上で、学校配置と学校規模を大前提として考えている。 今回の案では、相模野小学校と相模が丘小学校で生じている、アンバランスな学校規模の解消が図れると考えている。
2	相模野小の移転	第一弾として相模野小学校を相模中学校周辺に移転、移転の目的が立たない場合は、入れ替えとの話。 どの時期に、どういう場合にその判断をするのか。	現行の座間市公共整備再整備計画が、令和12年度に改定される予定。 その中で、公共施設再編の議論がされるため、その過程で判断していきたい。
3	他自治体からの児童生徒受入	移転後の相模野小学校は大和市との境に設置されることになるが、大和市の方から、より近い座間市の学校に通いたいという話を聞くと、大和市とコミュニケーションは取っているのか。	座間の子どもたちの教育環境を座間市が責任を持って整えるということをやっているため、大和市の子どもたちを受け入れることは想定していない。
4	再編スケジュール	広野台1丁目在住で、子どもが相模野小1年生。 実施するまでに数年かかるということなので、今の小学校1年生の子どもは相模野小のままと考えていて良いか。	現在通学している児童生徒については、影響が出ないように進めていく想定。 相模野小への旭小学校児童の受け入れは移転後になると考えている。
5	魅力ある学校づくり準備委員会	魅力ある学校づくりの準備委員会について知りたい。保護者も参加できるのか。	魅力ある学校づくり準備委員会は、おおよそ再編が完了する2、3年前に立ち上げる形になると思う。 保護者からも参加していただく想定。
	アンケート	LINEで再編に関するアンケートを書いたが、どのような意見が出ているのかというのを把握したい。	12月頃に作成予定の原案でアンケートの詳細についてお示しする予定。
7	再編スケジュール	案2の場合、相模野小と相模中の敷地を入れ替えて、相模中の建物をそのまま使うかと思うが、この場合計画が早まることはあるのか。	第1期（R9～R18）に実施する想定。 ただし、各エリアの進捗状況や社会情勢も検討しながらということになる。
8	通学区域	上の子が1年生で旭小に通っており、下の子が4歳下なので、計画に引っかかると思うが、どこの学校になるのか。	（住まいは、ひばりが丘2丁目）ひばりが丘小学校になる。
9	校名・校歌	学校が新しくなったり、場所などが変わった場合には、子ども達からの意見等により学校名を変えるのか。	座間市の場合は、既存の学校を分離統合するという形になるので、統合先の学校名や校歌、校章を使用する想定ではあるが、「魅力ある学校づくり準備委員会」で協議して決めていくのが良いと考えている。
10	施設整備	取り壊しから、新しい学校へ行く期間というのはどうなるのか。	仮設校舎についてということでよいか（確認）。 既存の校舎を使いながら、今あるグラウンドに新しい校舎を建てていく、ローリング式の場合と、グラウンドに仮設校舎を一度建て、既存校舎を壊してまた建て直すというような工法もある。敷地形状等によっても変わると想定している。

④ 令和8年7月7日（火）西部エリア（公民館）

No	項目	参加者質問・意見	市回答
1	少人数学級	今後20年、30年先を見据えたときに、25人学級や30人学級など、少人数学級の考え方をどのように見込んで学級数を検討しているのか確認したい。	学級数については、現在、国の基準に基づき35人学級を前提に学級数を検討している。 今後、30人学級や25人学級へ移行するか国の方針が示されていない状況。市独自で実施するには、教職員の人員費で多額の財源が必要となるため、現時点では現実的ではない。 ただし、35人は上限であり、児童生徒数によっては30人未満の学級も生じている。 今後は、5年ごとの見直しの中で、国の方針や児童生徒数の動向を踏まえ、必要に応じて計画を修正していく。
2	通学路・通学距離、指定校変更	資料7ページに通学距離についての説明があったが、ここで示されている距離は、地図上の直線距離ではなく、実際の通学路を前提とした距離として理解して良いか。その通学路は、現在の通学路を基準としているという理解で良いか。	通学距離については、お見込みのとおりで、出来るだけ現在の通学路を利用する形で検討している。
		四ツ谷地区の一番遠い相模川付近の児童は、今後、入谷小へ通学すると、現在の通学距離と比べてどの程度の差があるのか。	現在、座間小に通っている相模川付近の児童は、最長で約2.2km、徒歩で約33分かかっている。 一方、入谷小では1.4km、徒歩で約21分かかっている。 今回の再編により、座間小の通学距離は最長で約1.9km以内に収まる想定である。
		基準距離を超える場合に、学校選択制や中学校での自転車通学を検討するとの説明があったが、これは基準距離を超えた場合に限って検討するという考えか。それとも、距離にかかわらず、地域の実情や特別な事情に応じて柔軟に検討する余地があるか。	今回の再編案は基本的に基準距離に収まっており、その範囲内であれば自転車通学は今のところ想定していない。 指定校変更許可区域の設定については、柔軟に検討していく。
		県道に歩道橋が無いが、交通安全の観点から設置の計画はあるのか。	県道の横断については、現状では信号付き横断歩道があるものの、歩道橋は設置されていない。歩道橋の設置については、道路管理者である神奈川県との協議も検討するとともに、朝の通学時間帯の現地確認を継続し、必要に応じて交通誘導員の配置等も含め、安全対策を検討していく。
3	児童生徒数推計、通学区域、通学路・通学距離	相模川沿いの区域について、図で見ると、市街化調整区域のように見えるが、今後、その区域で宅地開発が大きく進むことは想定していないという理解で良いか。 一方で、農家の分家などにより、一定程度住宅が建つ可能性もあると思うが、そのような形で児童数が増えることについては、今回の計画では大きく見込まなくてよいという考えか。 また、もう一点心配しているのは、小田急線の東側から通学する児童のこと。 距離だけで見ると徒歩圏内であっても、坂道などがある地域では、実際の通学負担が大きくなる場合があると思う。	市街化調整区域に一定程度住宅があることは把握しているが、大規模に住宅地が広がる地域ではないと考えており、その点も踏まえて通学区域を設定している。 ただし、宅地造成やマンション開発などの情報については、少なくとも年1回、庁内で連携して把握することとしている。 今後、地域によって児童数が大きく増える見込みが生じた場合には、5年ごとの計画見直しの中で、必要に応じて通学区域等の見直しを検討していく。 小田急線東側の入谷東4丁目、新羽根

		中原小がなくなるという説明もあった、その地域から通う児童について、距離だけでなく、通学環境も含めてどのように考えているのか確認したい。	沢住宅周辺については、新たに入谷小学校区へ編入する予定。ただし、居住地によっては立野台小学校の方が通いやすいとの声もあるため、指定校変更制度を活用し、家庭や児童の事情に応じて柔軟に学校を選択できるような検討していく。
4	防災・避難所	今回の再編により、中原小などが廃止になると思うが、これらの学校は現在、一次避難所として指定されている。 学校が廃止された場合、校舎などの建物もなくなる可能性があると思うが、その場合、一次避難所としての機能も失われることになる。 一方で、地域によっては人口が増えている中で、避難所が減ってしまうことになるため、その点をどのように整理し、防災面との整合を図っていくのか。	避難所については、座間市では切迫性が高い地震として都心南部直下地震を想定している。 県の被害想定の見直し前は、避難者数を7,000人弱と見込んでいたが、現在は4,000人弱に見直されている。 そのため、仮に今回廃止となる学校が避難所の指定から外れた場合でも、現在想定している避難者数に対しては、他の学校避難所等で十分受け入れが可能と考えている。 なお、廃止後の学校施設の跡地活用については、今後別途検討していく事項である。
		避難所について、総数としては受入れ可能とのことですが、地域によって避難者数に差があると思う。 学校再編後も、地域ごとの避難者数と避難所の受入れ容量が適切に収まる見通しなのか、また避難所の区割りについてどこまで検討しているのか確認したい。 避難所の区割りについて、座間高校も避難先に含まれると思います。その場合、公民館やコミュニティセンター、中原小などの避難者が、入谷小や座間高校などへ分散して避難することを想定しているのか。	西部エリアについては、今回の再編で学校が廃止される予定はなく、学区の見直しを中心となるため、避難所機能への直接的な影響はないと考えている。 一方、廃止・移転を想定している中原小、旭小、栗原小については、周辺に立野台小、栗原中、現在の南中などの学校避難所があるため、避難場所が地域からなくなるものではない。 また、中原小等の想定避難者が周辺の学校避難所に分散して避難した場合でも、受入れ人数としては十分対応できると想定している。
5	防災・避難所	座間小や入谷小を避難所として活用する場合、一部の地域では、梨の木坂や大門坂など限られた道路を通して避難することになると思う。 仮に、それらの道路が土砂崩れ等で通行できなくなった場合、高台側の住民が座間小や入谷小へ避難できなくなる可能性がある。 今後、座間小や入谷小を避難先として位置づけるに当たり、避難経路となる坂道や崖地について、土砂災害対策や道路の安全確保に関する計画があるのか。	崖地対策については、基本的には神奈川県が実施することとなっているが、条件に合致する場合には、市も一部負担しながら擁壁工事などのハード整備を行っている。 現在も市内数カ所で工事を実施しており、梨の木坂から心岩寺方面に向かう崖地についても、現在工事を進めている。 一方で、すべての崖地をハード整備することは難しいため、危険な地形であることを市民に周知し、早めの避難を促すソフト対策を基本としている。 また、災害時に道路が通行できない場合には、指定された避難所に限らず、避難可能な避難所へ柔軟に避難していただくことを基本的な考え方としている。
6	防災・避難所	南中がなくなることについて、避難所はどうなるのか。	南中については、生徒数が既に減少しており、今後も減少が見込まれることから、学校としては廃止し、現在の生徒は栗原中と東中へ分離統合する予定である。 ただし、南中を完全になくすと、市の

			南側の防災拠点が不足することや、中原小の廃止により児童の通学距離が長くなることが課題となるため、比較的新しい南中の校舎をリノベーションし、小学校として活用することを検討している。 具体的には、栗原小を南中の場所へ移転し、新たな栗原小として継続して運営する想定である。 また、現在の栗原小が学校避難所でなくなった場合でも、隣接する栗原中や近隣のコミュニティセンターがあるため、避難場所として大きな影響はないと考えている。
7	防災・避難所	避難所と広域避難場所は役割が異なると思う。	広域避難場所は、大規模地震などによる火災発生時に、輻射熱（ふくしゃねつ）などから一時的に身を守るための場所である。 現在の栗原小が学校でなくなった場合でも、近接する栗原中で距離的にも容量的にも受け入れは可能と考えている。 また、水害時の車中避難についても、校庭を活用することは想定しているが、目久尻川周辺の被害想定からは、栗原中だけでは受け入れられないほどの避難者が発生する可能性は高いと考えている。 そのため、現時点では、現在の栗原小と栗原中の2校分の避難スペースが必要になる状況は想定していない。 【市長】 先日の台風時にも、多くの方が避難する可能性を想定し、車での避難者が発生した場合には、市役所など他の公共施設の活用についても内部で検討していた。 今後も災害の状況に応じて、特定の避難所だけで対応するのではなく、必要に応じて他の場所へ移動・分散できるよう、柔軟に対応していく考えである。
8	他公共施設の複合化・集約化	学校再編にあたっては、単に学校施設を統合・改修するだけでなく、これからの教育内容や地域との連携を踏まえた施設整備を検討する必要がある。 近年は、学校が地域の教育力を活用し、地域に開かれた学校として機能することが重視されています。座間市には大学や専門学校、美術館、博物館などの高等教育・文化施設が少ないため、学校施設の中に、地域資料、歴史、自然教育、図書館の機能、子どもの居場所、社会教育機能などを取り込むことも考えられるのではないかと。 また、西部地区では、自然環境や歴史資源を活用した学び、防災面では水害時に校舎2階へ安全に避難できる機能や、停電時にも対応できる設備など、地域特性を踏まえた機能も重要だと思う。 さらに、部活動の地域移行が進む中で、学	西中学校は相模川の浸水想定区域内にあるため、水害時の避難所としては課題がある。 改築時には、本来は高台への移転が望ましいが、用地確保が難しいため、現地改築の場合は地盤のかさ上げ、重要設備の上階配置、1階のピロティ化など、浸水対策を行う考え。 学校施設の複合化については、近隣公共施設の機能を取り込むことや、学校と親和性のある機能を導入することを、庁内で検討していく。 地域の方が集まり、子どもたちの教育活動にも関わることができるような拠点づくりは、理想的な方向性として考えている。 部活動については、休日の部活動から地域クラブへの移行を進める方向で、

		校施設を社会教育や地域活動の拠点として活用することも求められる。 あわせて、学校プールについても、今後の学校再編や改修の中でどのように位置づけるのか、民間委託や屋内プールの活用なども含めて検討する必要がある。 学校の改修や再編を行う際には、教育委員会だけでなく関係部局とも連携し、地域に必要な機能を学校施設に複合化・集約化していく考えがあるのか確認したい。	教育委員会と市長部局のスポーツ担当が連携して検討している。 【市長】 学校プールについては、民間施設の活用による水泳指導を進めており、専門的な指導を受けられることや天候に左右されにくいことから好評である。 屋外プールは暑さや安全面の課題があるため、将来的には屋内プールの整備も考えられるが、財源の課題があるため、当面は既存施設を活用していく予定である。
9	老朽化対策	私は建築関係の仕事をしており、仕事柄、市内の小・中学校の修繕に関わることがある。 大規模な工事ではなく、ドアの不具合や点検口の一部落下など、小さな修繕が中心だが、そうした不具合が非常に多いと感じている。 学校施設が古くなっていることは皆さんも十分ご承知だと思うが、実際にその環境で学んでいる子どもたちのことを考えると、可哀そうであり非常に心配。 予算に限りがあることは理解しているが、子どもたちが安心して、より良い環境で学べるよう、施設の改善を進めていただきたい。	西部エリアでは、座間小学校の築年数が相当経過しているため、第1期の今後10年以内に改築を進めていきたいと考えている。 また、入谷小学校については、現在、外壁改修を行っている。今後も外壁だけでなく、施設内部についても、安全・安心の観点から必要なメンテナンスや改修を計画的に進めていく。 【市長】 座間市の学校施設は非常に老朽化が進んでいると認識している。 学校施設の整備については、できる限り予算を確保して対応しているが、財政的には厳しい状況である。 そのため、「未来へつなぐ学校づくり」を進め、施設を集約しながら、より良い教育環境へグレードアップしていく必要があると考えている。 学校施設の安全性は、子どもたちの命に関わる重要な課題であるため、今後もしっかり取り組んでいきたい。

⑤ 令和8年7月11日（土）中央エリア（市役所）

No	項目	参加者質問・意見	市回答
1	児童生徒数の減少	この計画は、児童生徒数が減っていく前提で作られているが、増やすということは考えていないのか。	少なくとも今後20年間は児童生徒数が減少していくものと見込んでいる。 一部の自治体で人口が増加している事例もあると認識しているが、全国的には減少傾向にあり、本市も同様である。 人口減少に対する政策・施策は教育だけでなく、市全体で取り組んでいく。
2	通学路・通学距離、	民間企業でいうところの合理化・リストラ計画ではないかと思う。教育はそうではないと思う。義務教育は聖域だと思っている。座間の未来に対して、少しでもマイナスになるのは避けて欲しい。望ましい通学距離、2.2km、2.5km はとんでもない。 （回答を受け）「望ましい」という言葉は、だれが主体になるかで、意味が曖昧になるため、外してほしい。 高齢者や弱者対策より子ども対策を優先してもいい。	再編案を作成するにあたり、通学路のシミュレーションを行い、実際に登校時間に職員が現地を歩き、確認を行った。 距離については、国の基準である中学校6km、小学校4kmよりは短い状況である。 望ましい学校規模・望ましい学校配置は学校再編計画の前段となる「ざま魅力ある学校づくり方針」で検討した。 この方針は、保護者、学校、地域、学識経験者で構成する検討委員会で、2年間に渡り協議、検討したほか、児童

			生徒の保護者、教職員等を対象としたアンケート結果などを参考に策定しており、慎重に検討を重ねてきた経過があるというのはご理解いただきたい。
3	熱中症対策 インクルーシブ教育	熱中症対策について、引き続き気を付けてご指導いただきたい。 もう一つ、栗原小がインクルーシブ教育の推進校になっていると思うが、インクルーシブ教育は知られていないと思うので教育委員会からここで説明してもらえるか。 海老名市では、フルインクルーシブ教育に取り組んでいるようだが、座間市としてはどのように考えているか。	通学中の酷暑対策については、全国の先進事例を調査しているので、引き続き酷暑対策は検討していきたい。 インクルーシブ教育とは、障がいの有無や国籍、言語などに関わらず、「すべての子どもが同じ場で学ぶ」という学び方の考え方を指す。 フルインクルーシブ教育は、県と海老名市が連携し進め出したところなので、先進事例として参考にしながらあり方を考えて行きたい。
4	子どもの意見、 策定体制、 PTA	子どもからの意見はどのくらい反映されているのか。 「ざま魅力ある学校づくり方針」の検討メンバーに、スクールソーシャルワーカーや社会福祉士、精神保健福祉士、保健師など精神的に子どもと関わる方がいたのか確認したい。 あと、知人の保護者意見として、学校統合であれば、PTA役員の持ち回りやその負担についてはどう考えているのか聞きたい。PTA会長等の意見は反映されているかどうか。	同方針策定の検討時には、スクールソーシャルワーカーや社会福祉士などメンバーとして含まれていない。（教育心理学を専攻する学識経験者が参画していた。） 今年の2月から3月にかけて、児童生徒と保護者を対象にアンケート調査をした。原案を作る際に、公表予定。 PTAの具体的な話は、計画書の24ページの「（仮称）〇〇学校区魅力ある学校づくり準備委員会」で検討することになる。
5	中原小の廃止、 通学区域、 通学路・通学距離	6年ほど前に入谷東4丁目に転居してきた。「今、中原小に通っている子はそのまま卒業できるのか」を聞きたい。 2. 2kmが平坦なのか坂道なのかで全然違う。入谷東4丁目から座間駅の向こう側は大人でも厳しいと思う。通学バス等を検討してほしい。 入谷東4丁目が学区を変更する理由を知りたい。駅等でリスクもあると思う。	入谷東4丁目の新羽根沢住宅周辺では「入谷小は無理では」という意見もいただいている。 中原小については、入谷小、立野台小、栗原小のどこが良いのか、通学区域の線引きについて、いただいたご意見等を参考に精査していく。 再編時期については、12月の原案作成時にお示しするが、中原小については、南中学校のリノベーション工事が終わり、栗原小の移転が必要となるため、第1期後半の10年後に近い時期になると想定している。
6	中原小の廃止、 熱中症対策	中央エリアと中原小学校の課題は理解したが、中原小の廃校ありきに感じた。 廃止にした合理的な理由や根拠について聞きたい。 もう一つ、通学距離が延びてしまうことに対する、熱中症対策について聞きたい。	子どもたちの規模が小さくなってくると、学習面や教職員への影響がある。 中原小と栗原小が小規模となることから、どちらかを統廃合しなければならないということを考えた。 2校間における通学距離、学校配置、通学負担軽減の観点を踏まえた結果、栗原小学校を、南中学校の場所に移転して継続することにし、中原小学校を廃止する案とした。 熱中症対策の先進事例として、クーリングシェルターの活用、製氷機の導入、ネッククーラーの配布、マイボトルに水を入れるための給水スタンドの導入などがある。 引き続き、子どもが安全に通えるような対策は考えていきたい。
7	中原小の廃止、 通学区域、	改めて、6歳児があそこから坂を登って下って登って、駅を超えてというのは人命に関わることだと思うので、市としては訴訟	指定校変更や通学区域については、いただいたご意見を参考にさらに精査していく。

	通学路・通学距離	リスクを考えてやって欲しい。子どもに何かあった場合には、必ず訴訟になると考えて欲しい。 指定校変更区域による対応は違うと思う。登校班の有無や共働き親のどちらが送るのかという話になる。 子どもを増やす政策や、座間に住んで良かったと思えるような政策が必要だと思う。	ただし、どこかで通学区域の線を引かないといけない。明らかに無理があるという地域については、見直しをしていきたい。 そういった視点は当然必要だと思う。今日の意見も教育委員会だけではなく、市全体として共有させていただく。
8	中原小の廃止、通学区域、通学路・通学距離	入谷東4丁目は明らかに広いので、現在、入谷小学校になっているところはそのままが良いと思うが、中原小学区になっている入谷東4丁目は、立野台小学校区にして欲しい。 登校班もどこが集合場所になるかわからない。 実際、登校班の時間に歩かれたということもあるが、1日歩くのと6年間毎日歩くのでは違う。命にかかわることなので対策してほしい。	意見として受け止める。
9	プール	SNSで、市長が市のプールについて、10か所のうち5か所しか稼働していないということを発信しているのを見た。 子どもたちが安心して遊べるプールについて、有志で考えて資料をまとめているところである。 学校敷地内にプールを作って、防災プールということで、被災時の飲み水として活用できると思う。	被災時の飲み水確保については、中原小等を除く各校の校庭の下に、非常用飲料水貯水槽が設置されている。 プールについては、生活用水としての検討はしているが、飲み水としては考えていない。 市立プールについては、市の公共施設再整備計画の中でどうしていくか決めていく。
10	老朽化対策	廃止になる学校について、廃止までの間に老朽化が進んだ時にどのような補修を行うか。	廃止になるから工事をしない、控えるという考えは一切ない。 児童生徒の安全のために、必要な工事や改修を行っていく。
	通学路・通学距離、体育館への冷房設置	自宅は相武台東小学区と立野台小学区の境である。子どもが学校に着くまでに、熱中症を登校班に言えなくて保健室に運ばれたことがある。 保護者としてはお金を出すので、スクールバスを出して欲しい。 命にかかわるのでしっかり話し合っ欲しい。 あと、体育館に冷房がない。予算の問題はあると思うが、設備を整えて欲しい。	スクールバスは、学校の統廃合により著しく遠距離の通学が発生する場合や公共交通機関の利用が困難な場合などが導入に対する一般的な考え方のため、現状本市においてはスクールバスの導入は必要になる状況ではないと考えている。 今年度から体育館にエアコン設置工事を始めており、3年後までに全校に設置する予定。
	中原小の廃止、児童生徒への配慮・対策、児童ホーム	中原小が窪んだ土地にあり、老朽化していることが不安だったので、立野台小への統合はありがたいが、移る側の子どもの負担が大きいと思う。 受け入れ側の子ども、「自分たちの場所だったのに」という思いから、いじめに繋がると感じる。 学童について、フルタイムだと2年生までしか入れないと聞いている。中原小がなくなることで、併設学童がどうなるか知りたい。	心理面でのバックアップについて、可能であれば、統合前と同じ先生がいる状況を作ること考えている。 また、交流授業やイベント等で予め交流を図ったり、スクールカウンセラーの活用についても検討している。 児童ホームは、今年度の待機児童が100人を超えているため、拡充を進めていく予定である。 学校再編に伴う整備の場合は、学校敷地内に設置する方向で考えている。